

「新興国の新しい労働運動」 予備的考察

「新興国の新しい労働運動」研究会

太田 仁志 編

2019年3月

独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所

調査研究報告書
地域研究センター 2018_2_40_409]
「新興国の新しい労働運動」研究会

はじめに

本報告書は「新興国の新しい労働運動」研究会（2018～2019年度）の中間報告である。本研究会はブラジル、南アフリカ、フィリピン、中国、インドという新興5か国における労働運動に、「新しい労働運動」という視角で接近を試みる。「新しい労働運動」とは、その担い手が必ずしも労働者だけでなく、運動の場が必ずしも（物理的な）職場だけでなく、あるいはまた、目的が必ずしも賃金をはじめとする労働条件の改善・向上だけではないような労働運動を指す。社会運動ユニオニズム（SMU: Social Movement Unionism）として論じられる労働運動も、「新しい労働運動」に含まれる。しかし実のところ、何が「新しい労働運動」なのか、国や時代によって、また論者によって可変的である。共通するのは、それが従前の労働運動のあり方なのか国の社会・経済運営を巡ってなのかを別として、労働者を取り巻く困難を克服しようとする、状況打破を目指す労働運動であるという点である。

2年間の研究会の1年目である今年度は、それぞれの国で労働運動がどのように展開してきたが、何がその国の新しい労働運動か等、2年目の最終成果の準備として執筆者の関心のままに、本中間報告の各章が取りまとめられている。試論的な部分もあるが、この中間報告を踏まえて研究会で議論をさらに深め、2年目には論点を掘り下げた研究を展開したいと考えている。

2019年3月

編者

研究会委員

太田仁志（地域研究センター南アジア研究グループ、研究会主査・幹事）

近田亮平（在サンパウロ 海外調査員）

佐藤千鶴子（地域研究センター アフリカ研究グループ）

マラグタス S. V. アマンテ（フィリピン大学労働・労使関係学部）

山口真美（新領域研究センター ジェンダー・社会開発研究グループ）

目次

第1章 新興国の新しい労働運動 序論にむけて	1
太田仁志	
第2章 ブラジルの「新しい労働運動」	
—労働運動の変遷、状況、直面する問題—	20
近田亮平	
第3章 南アフリカにおける労働組合運動	
—南アフリカ労働組合会議（COSATU）を中心に—	36
佐藤千鶴子	
第4章 Philippines Unionism	
— Worker Voice, Representation and Pluralism	
in Industrial Relations —	63
Maragtas S.V. AMANTE	
第5章 天安門事件と中国の新しい労働運動	
—新旧労働運動史の整理—	104
山口真美	
第6章 中国の新しい労働運動	
—労働 NGO の形成と労働運動の展開—	120
山口真美	
第7章 インドの「従来型労働運動」論	
—「新しい労働運動」論への視角を探る—	141
太田仁志	

調査研究報告書
地域研究センター 2018_2_40_409]
「新興国の新しい労働運動」研究会

2019年3月31日発行
発行所 独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所
〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉 3-2-2
電話 043-299-9500

無断複写・複製・転載などを禁じます。
